

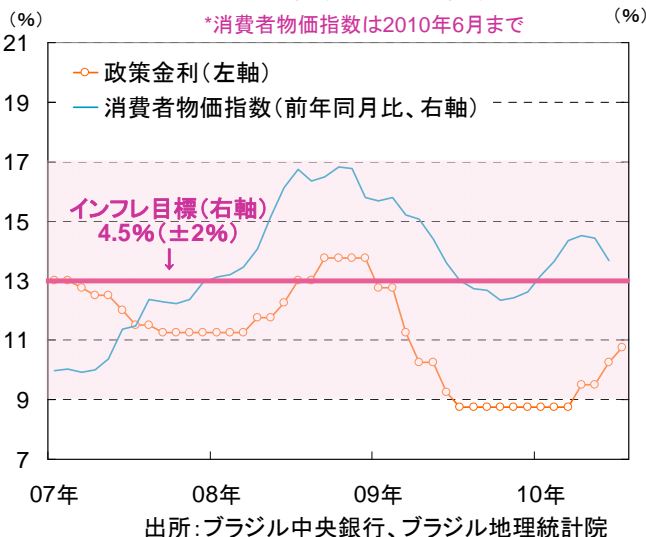
利上げ継続のブラジル、ただし利上げ幅は縮小

ブラジル中央銀行は、7月21日の金融政策委員会において、政策金利を0.5%ポイント引き上げ10.75%とすることを決定し、株式市場の引け後に発表しました。

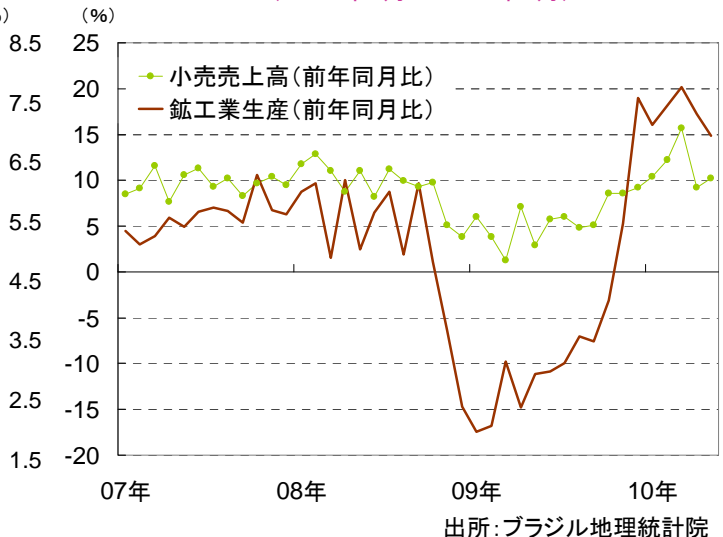
ブラジル経済は、旺盛な個人消費と堅調なインフラ投資がけん引役となり、景気回復を続けています。鉱工業生産はリーマンショック以前の水準まで回復し、2010年1-3月期のGDP成長率は前年同期比+9.0%と高水準となるなど、かなり力強い景気拡大がみられ、物価への影響が懸念されるようになりました。こうした中、景気拡大による過熱感や需要拡大に伴うインフレ圧力を抑制するために、ブラジルは2010年4月に利上げに転じており、今回の引き上げは3回目となります。ただし、利上げ幅は、前2回の0.75%ポイントを下回るものとなりました。これは、消費者物価指数が6月に前年同月比+4.84%と、当局のインフレ目標(4.5%±2%)の中央値を引き続き上回ったものの、2ヵ月連続で上昇ペースが緩やかになったこと、そして、20日に発表された別のインフレ指標においても物価上昇の鈍化が確認されたこと、また、5月の小売売上高および鉱工業生産の伸び率が市場予想を下回る水準となり、景気過熱に一服感がみられていることなどが背景になっていると考えられます。さらに、足元で発表された米国および中国の経済指標が景気減速を示唆するものであったことなどを受け、世界景気の先行き懸念が広がっていることなども影響していると考えられます。

今回の利上げ幅縮小については、インフレ圧力の抑制をめざしているブラジル中央銀行が、足元の景気動向を踏まえ、適切に判断を行なった結果と受け止められます。なお、今後も利上げが見込まれるものの、そのペースなどは、引き続き内外の景気動向やインフレ動向を踏まえて適切に判断されるとみられ、ブラジル経済は、信任の高い当局の舵取りのもと、内需を主なけん引役として巡航速度での成長を続けることが期待されます。

ブラジルの政策金利と消費者物価指数 (2007年1月～2010年7月*)



ブラジルの小売売上高と鉱工業生産 (2007年1月～2010年5月)



※グラフ、データは過去のものであり、将来を約束するものではありません。

日興アセットマネジメント

■当資料は、日興アセットマネジメントが市況等についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。